

令和5年度 第1回 尼崎21世紀の森づくり協議会 議事録

日時 令和5年10月10日（火）10時00分～11時40分
場所 尼崎リサーチインキュベーションセンター 2階小ホール

○委員（出席者16名）

（五十音順）

氏名	役職	備考
東 朋子	NPO法人コミュニティ事業支援ネット理事長	
井上 公宏	尼崎信用金庫営業総括部部長兼地域支援グループ長	
今岡 政彦	尼崎商工会議所総務部長	
植村 弘	阪神電気鉄道(株)沿線価値創造推進室部長	
岸本 幸三	NPO法人尼崎21世紀の森理事	
北山 耕司	日本製鉄(株)関西製鉄所尼崎総務室長	
木村 晶子	兵庫県阪神南県民センター長	
中瀬 勲	兵庫県立人と自然の博物館館長	
西村 善明	尼崎鉄工団地協同組合特別顧問	
藤本 真里	兵庫県立大学教授	
前島 紳作	(株)神戸新聞社阪神総局長	
宗 和弘	アマフォレストの会会長	
山浦 秀明	尼崎青年会議所委員	
山田 隆	日本山村硝子(株)CSR推進室長	
横田 敏治	尼崎市社会福祉協議会理事	
渡邊 明美	尼崎市教育委員会事務局学校教育部長	

■資料の確認／事務局

【資料】

- 資料1 「尼崎21世紀の森構想」の取組状況
- 資料2 「尼崎の森中央緑地」の自然共生サイト（OECM）認定
- 資料3-1 「今後の森構想エリア内の環境学習のあり方」の検討について
- 資料3-2 企業・市民団体へのアンケートの実施について
- 資料3-3 ヒアリングの実施について
- 資料3-4 森構想エリアで環境学習を推進していくための課題について

【参考資料】

- 参考資料1 尼崎21世紀の森づくり協議会設置要綱
- 参考資料2 令和4年度第2回尼崎21世紀の森づくり協議会議事録

■協議会会長選任

出席委員の互選により中瀬委員を会長に選任

■会長による開会の挨拶

会長に推薦賛同いただきありがとうございます。司会進行をさせていただきます。宜しくお願ひ致します。議題2でOECMの認定について報告があると思いますが、尼崎21世紀の森

は、震災から2, 3年経った時に、当時大学の教授が、ここを100年の森にしようと提案され、県や市民の方と一緒に協力し、今日のような森になっている。この度、OECMに認定され、20年、30年の努力の成果でここまできた。これから、新たな展開をしていく時期にきている。OECMに認定されたコウノトリの郷公園も、震災直後から一度絶滅したが、飼育長が必死に雛を孵し、それも約30年かけて市民参加の下で活動をやってこられた成果だと思う。日本中のOECMに認定されたところは、20年、30年と先輩たちが頑張ってきたその成果がでてきたものであると思う。尼崎21世紀の森では、生物多様性の基盤はできてきたので、それをベースにして、今後、県民や市民が、どのように活動を展開していくのかが期待されていると思う。今日の議論がさらにそのことに寄与すると思う。

■報告事項 「尼崎21世紀の森構想」の取組状況

○資料説明（事務局）

資料1「尼崎21世紀の森構想」の今年度の取組状況、をもとに以下の内容を事務局より説明。

- 1) 森のマルシェ（報告）
- 2) 「世界水泳選手権2023福岡大会」事前合宿選手交流イベント（報告）
- 3) CANALFRIDAY（報告）
- 4) 尼崎運河クルーズ&環境学習フェスティバル「なんとキャナル！」（報告）
- 5) 森構想20年の成果の発信（報告）
- 6) ロハスピクニック（報告）
- 7) 森のフェスタ（報告）

○意見交換

委員：今年度の取組状況は抜粋ということでよいか。

事務局：主な取り組みを紹介している。

委員：6月18日に尼崎市社会福祉協議会理事の大庄支部長が中心となり、兵庫県、尼崎市、社会福祉法人尼崎市社会福祉協議会大庄支部、尼崎の森中央緑地パークセンターと協力して「森の文化祭」を行ったことを補足させていただく。

会長：報告漏れがないように、取り組みを一覧表で巻末に付けていただけると良い。

■報告事項 「尼崎の森中央緑地」の自然共生サイト（OECM）認定

○資料説明（事務局）

資料2「尼崎の森中央緑地」の自然共生サイト（OECM）認定、をもとに事務局より説明。

○意見交換

意見なし

■協議事項「今後の森構想エリア内の環境学習のあり方」の検討について

○資料説明（事務局）

資料3-1から資料3-4をもとに事務局より説明。

資料3-1 「今後の森構想エリア内の環境学習のあり方」の検討について

資料3-2 企業・市民団体へのアンケートの実施について

資料3-3 ヒアリングの実施について

資料3-4 森構想エリアで環境学習を推進していくための課題について

○意見交換

委員：前回にも意見を述べたが、小学校のカリキュラムや単元を調べ、現場の学校にヒアリングする必要がある。学校は忙しいため、学校に合わせたものであれば需要が高いと思う。

ひとはくのエコロプロジェクトでは、幼稚園の遠足を有馬富士公園などの施設に誘致し、人と自然の博物館のスタッフが幼児のためのプログラムを実施している。前年度から公募している。幼稚園の先生とは、緊密に情報交換して、プログラムの内容や運用方法に活かしている。幼稚園の先生と、人と自然の博物館に所属しているエコロプロジェクトのスタッフとの間には、信頼関係がある。専門家のサポートとあるが、外部の専門家ばかりでは、尼崎21世紀の森の特徴が出ないと思う。一方で、企業の方にとって環境学習というと難しく捉えがちである。働かされている姿や企業のこだわりを見せることが、子どもたちにとって良い環境学習になる。企業の魅力を出すことが、尼崎21世紀の森らしい環境学習の形であると思う。

会長：学校団体や幼稚園を対象にする時は、誰がキーパーソンになれるかを見ないといけない。人と自然の博物館では、環境学習の取組を始めた頃、小学校から高校の先生の社会部会の会合や校長会などで環境学習に来てもらえるようPRをした。どのようなところにアプローチするかが大事である。

事務局：今回は、環境学習を実施する側の調査をさせていただいた。資料3-4に②繋がる場の創出とあるが、来年度、企業の方に率直なご意見をお話していただける機会を検討している。現在、尼崎の森中央緑地では、森の会議を設け、学生や企業、市民団体など様々な方にご参加いただき、公園の活用を提案いただく機会を設けている。森の会議と同じような環境学習の森の会議版を来年度に実施できればと考えている。

委員：NPO法人コミュニティ事業支援ネットは、環境団体ではなく、まちづくりの団体である。環境の専門ではないので環境に非常に興味があるわけではない一般

市民の皆さんが、SDGsは面白いなと感じていただける取り組みがあれば良い。地域の皆さんと環境やSDGsについて繋がるようなお話をさせていただきたい。

委員：年に1回尼崎の森を利用させていただいている。その際、西宮や大阪の方も来られており認知度は上がっていると思うが、尼崎市全体でみると、まだ認知されていないようである。尼崎21世紀の森構想が市民権を得ていないような気がする。尼崎市全体ではもっと沢山の環境団体がある。国道43号以南だけではなく、尼崎市全体を巻き込めるようにしていただけると森が発展していくのではないか。

会長：認知度を高めるためには、現在来ている人を大事にしつつ、その人たちから口コミで広げるなど、どのように認知度を高めていけば良いか検討いただければと思う。

委員：運河でゴミ拾いをしており、先日、尼崎市でゴミ拾いをされているチームの方とお話することがあり、繋がる場は大切だと思うことがあった。4月から尼崎市のゴミの分別が始まり、拾ったゴミを分別しなければならなくなった。人が飲んだものを洗って捨てないといけないが、コロナの関係で分別が難しい。他の方と集まると、自分たちが抱えている問題を他の人も抱えていたことが分かった。コンビニエンスストアにある緑地帯を、常連さんを巻き込んで管理するようなことができれば面白い。

会長：市民から始まるネットワークですね。それをどう上手く一緒に連携できるかですね。

ヒアリングについて、兵庫県教育委員会のSDGsスクールアワードは、元々、グリーンスクールという名前だったが、生き物や生物多様性を対象とした内容のものに応募が偏ってしまうため、当時の教育長が分野を広げるために名前を変えた。SDGsという言葉に変えたことで、マイクロプラスチックや地球温暖化、フードロスなど様々な提案が出てきた。対象は、学校団体を相手にしている。

環境部環境政策課のひょうごユースecoフォーラムの対象は、主に中高校生のクラブ活動であり、淡路景観園芸学校が協力している。エコロコは、人と自然の博物館が協力している。共生のひろばの対象は、セミプロである。このように、それぞれターゲットが分かれている。その辺りの棲み分けを考慮したうえで、21世紀の森では何をすべきか、また、ターゲット層をどのように絞り込むか検討していただきたい。

繋がりについて、最近、大学の先生も海外に出ることが少なくなってきており、海外ネットワークが我々の頃の半分以下になっている。尼崎21世紀の森が、海外や国内でされている面白い取組を、お互いに吸収しながら発信し合える拠点の1つになればと思う。

「小規模ミュージアム（小さいとこ）ネットワーク」は、小規模ミュージアム

同士が、お互いに助け合うためにネットワークを組み、年に1回集まり会議をしている。事務局や規約は無く、高槻市の博物館の学芸員が1人でネット環境を管理しているだけである。この会議には、面白い若者が沢山集まってきており、研究会やイベントなどをしたりしている。小さいところは、小さいところで繋がり、大きいところ以上の活動をしたら良いと伝えたことで、それを聞いた小さいところが、色々なことをしている。このような動きのように、まちづくりや環境保全が森構想エリアから始まったら面白い。

九重ふるさと自然学校は、セブンイレブンが単独で土地を買収し、4人の専門家を雇い、年間プログラムを作るなどしている。尼崎でもこのようなことができれば良い。この取組に関わっている専門家の1人は、有馬富士公園、人と自然の博物館で育った女性である。日本中にネットワークを組んでいける専門家を育成し、日本中そして世界中に輩出していけるようにできれば、第2世代の21世紀の森が発展していけるのかなと思う。

■その他（尼崎運河に関する情報提供）

○資料説明（委員）

補足資料「2030尼崎運河マスタープラン」をもとに、委員より説明いただいた。

○意見交換

会長：ロンドンのタワーブリッジの横のショッピングモールは、昔の古いドックランドを改良したものである。ボストンは工場地帯と海、市街地と海を分断する高速道路を撤去したことで治安の良い町に変わった。21世紀の森は、海や水への近づき方の新たな提案をできればよい。まだ世界中どこもやっていないことなので、もっとPRされても良いと思う。

委員：個人的には、蓬川沿いにSUPの店舗を作ったこともあり、毎日SUPができる環境を今後も整えていきたいと思っている。

委員：先日、ドローン船の計画に携わられている方と直接お会いし、こんなことができるという話をする機会があった。運河で実現できると良いと思う。

委員：全世界の中でも、これだけの延長距離がある水面をもつ尼崎運河が一番適していると思う。田舎でやっても意味がなく、都会でやることに意味があると思う。

委員：尼ロックを通過する船舶が年間1万6百から5千5百くらいに半減したという、その5千5百の船の種類はどのようなものがあるのか。

委員：私が知っている限りでは3種類ある。1つは、荷物を運ぶ貨物船がある。砂利やステンレスをロールペーパーみたいに巻いてある1個20tのものなどを運んでいる。30t以上のものは陸送では30tトラックくらいしか運ぶ方法が無いと思うので、不便なため船で運んでいるのだと思う。

しかし、尼崎工業地帯では物流業が増えており、一方で製造業が減少している。そのため、船を使わなくなってきたため、あと10年後には船が半減すると思う。船が通らない水域になってくるので、そこを市民に開放してSUPでアクティビティなどできるようにすること等が考えられる。尼崎運河では、船が通行する際に自分が出した引き波にもう一回当たってしまうため、海外で流行っている2本のボードに板を置いたような小型遊覧船であれば、波が出にくい。ドバイで流行っているもので、8人くらいが乗れて、バーベキューができるものがある。日本では、免許が無くても走らせることができる大きさである。尼崎運河には船を泊めるところが全然ないため、泊める所を作っていただきたい。

事務局：尼崎運河は昭和初期に重工業・製造業が発展するとともに運河が形成された。現在、企業が有する専用岸壁が多数、運河内にある。過去には1万隻以上が、尼崎閘門を出入りしていたが、現在は1日20台前後、年間6千台前後の船が出入りしている。一番大きい船で約500tの砂利船がある、その他に荷物を運ぶ引き船や、観光船の出入り、それらの船を全部カウントしての出入りの数になる。

CO2問題もあり、モーダルシフト（大きな荷物をトラックばかりではなく、船舶で運ぶ）というのも見直されている時代である。個人的な見解として、船舶は減ってきているが、製造業や砂利業者がいらっしゃる限り、船舶の台数がこれ以上減ることはないかなと思うため、企業の持っている専用岸壁と新たな構想の共存を今後話していきたい。

会長：日本もやっとモーダルシフトと言い出した。震災直後に何度も言ったが全然実行しなく、ようやくここ2, 3年でやり始めている。十数年前に大学の先生が、大阪の大川にデッキを浮かべて、ビアガーデンをしようとして提案されたが、大阪の1級河川に構造物を浮かべることに對して、河川局や港湾局の反対があった。しかし、最近、国交省が河川や公園を活用するようにとっている。また、大阪の御堂筋は側道を緑にすることまで考えている。このような時代に入ってきているので、岸本委員のご意見は、日本を最先端へとリードすることになるかもしれない。

■その他（2025大阪・関西万博に関連する現状について）

○資料説明（事務局）

補足資料「2025年大阪・関西万博に向けた兵庫のアクションプランver.2」をもとに、事務局より説明。

○意見交換

委員：昨年度3月の協議会の際に、サウンディングについてお話いただいたが、その後の状況はどうなったのか。

事務局：3月にサウンディングを行い、計4社の方からご意見を伺った。前回の協議会の際にホームページで公表するとお伝えしていたが、公表できていない状況である。様々な万博に関する動きも出てきたため、腰を据えて検討していくということで考えている。4社からいただいた意見はしっかり受け止め、このエリアで何がいつできるのか、そのために行政の支援として何が必要か、万博との連携をどうしていくのかも含めて検討を深めていこうと考えている。

委員：4団体のご提案を、いずれか形にさせていただけたらと思う。

会長：駐車場を沢山作り、沢山の空飛ぶ車が飛ぶのか。

事務局：空飛ぶ車は、万博の際は人を運んで飛ぶことはできないと思う。人を乗せて飛ばすためには、航空法などの課題をクリアしていかなければならない。型式証明がないと、人が住んでいる上を商用運航できないことなどから、機体の開発が遅れている。万博の時に飛ばす事業者4社は決まっており、その4社が型式証明を取得できれば、飛ばすことができるが、尼崎では今は厳しいと聞いている。万博の時は、デモフライトのようになるイメージである。万博の会場外駐車場は3千台を計画している。

委員：朝や帰宅時の渋滞あるいは、楽市楽座をされると、行き来がしづらい場所であるため、地域の方の生活に支障がない形でやっていただければと思う。

委員：協議した結果、大庄地区では工業地帯の方を通るため、住居の方には影響がないと伺っている。

事務局：非常に渋滞することが予測されるため、万博来場者には阪神高速湾岸線を通るルートの利用を呼びかけることとしている。駐車場は事前予約制とし、神戸市より西側の方を対象にしている。そのため、阪神高速湾岸線を利用していただき、5号橋交差点に負荷をかけないように万博協会でも検討されている。

■閉会